



2009年10月発行

サポート通信



第11回公開審査会を開催 14グループへ助成を決定

第11回千代田まちづくりサポート公開審査会が、6月6日(土)、ちよだプラットフォームスクウェア5階会議室で開催されました。今回はトライアル部門1グループ、一般部門15グループから助成活動の申請がありました。審査の結果、トライアル部門1グループ、一般部門13グループへの助成が認められました。当日は、申請グループや関係者、一般来場者など約100名が注目するなか、申請グループから活動内容の発表と審査が行われました。

今回は、継続の6グループの他、神田のまち周辺のコミュニティーづくりや魅力再発見などの活動を行う「神田人」、「かんだもん」、「EAST WIND千代田」、「神保町Art-Live-Rally実行委員会」。麴町の地域周辺でのコミュニティーづくり活動を行う「結びの会」など新しく8グループの活動が加わりました。NPO法人OurPlanet-TVは発表辞退。

◆今後の活躍に期待

助成活動の内容については、中間発表会(11月1日(日))、活動成果発表会(3月予定)で報告されます(場所:神田錦町3-21ちよだプラットフォームスクウェア5F、入場無料)。これら発表会は、千代田のまちづくりを担う志をもった人々のネットワークづくりの場でもあります。参加したい方、活動を検討している方は是非お越しください。

CONTENTS

【第11回助成申請グループ(発表順)】

【一般部門】

(3回目)

- C-bridge 2
- NPO法人 地図文化研究会 2
- 食育。街行く研究会 2

(2回目)

- NPO法人 ちきゅう市民クラブ 3
- NPO法人 WEL'S新木場 3
- 神田探偵団 4

(1回目)

- 神田人 4
- かんだもん 5
- EAST WIND 千代田 5
- 神保町Art-Live-Rally実行委員会 5
- アントレプルヌーラジャパン 6
- 日本の農業に一生を賭ける!
学生委員会(SOLA) 6
- 結びの会 7
- 自然育児を楽しむ会 7

【トライアル部門】

- 半蔵門駅通り花の会 8

【審査会委員講評・総評】

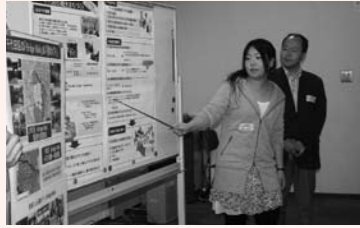
9

【賛助会員のご紹介】

12



1 橋を視点として考える千代田の観光まちづくり (C-bridge)



橋を視点として考えた千代田の観光まちづくりを提案します。今回で助成3年目になります。1年目は神田川、日本橋川の橋を対象とし、2年目は千代田まちづくり景観審議会が対象としなかった皇居内濠の橋を対象とし、ブリッジウォークや釣船による橋めぐりを行いました。3年目の活動は、「助成期間終了後の継続性」をテーマに行います。具体的には、①社会人と学生とのコラボレーションによる会の継続的な運営、②橋だけではなく周辺建物を含めた観

光ルートの提案、③採算性を考慮した会の継続性の検討をお行います。学生中心では難しかったことを、社会人を巻き込むことにより実現したい。

Q: 利用している船着場は、本来防災目的のはずである、会費をとり観光目的となると利用が難しくなるのではないかと

A: 考えていなかった、検討課題としたい。

Q: 千代田の観光まちづくりといったときに、誰をターゲットに、どこを見てもらおうとしているのか。

A: 先ず区民の方に見てもらいたい、次に行政などです。橋を見る視点を変えると、新しく気付いてもらえることが多いと思う。例えば、橋の下から見ることにより、橋にはいろいろな形があることを発見できると思う。

2 地図を活用した魅力ある“まち”千代田の実現 (NPO法人 地図文化研究会)



地図を通じた地域の歴史・伝統・文化などの継承、次世代知識人の育成、社会貢献を目的として活動している。地図は「見る」ものではなく、「読む」もの、地図を読みこなすことにより、今まで気付かなかった点が明らかとなり、まちづくりに反映できるのではないかと考えている。今回は助成活動の集大成として、子どもから大人までの方々が、趣味を活かし、楽しみながら健康増進にも役立つ「未来地図」(千代田にこうなって欲しい)提案型地図の作成を計画している。

Q: 市民参加型の「未来地図」と称して、助成3回目となる。

る。あれもこれもと整理されず、ピントがぼけているのではないかと

A: 災害時の帰宅困難者は概ね20km以上を歩くようになる。このような距離を歩ける程度の健康増進を考えている

Q: 1, 2年目の地図の反響はどうだったのか、地図へ盛り込むニーズを具体的にどうくみ上げているのか

A: 反響は知り合いの中でしか伝わっていない、この中では良い。ニーズは現状把握から共通テーマを探し、見つけ出している

Q: 活動を継続させ、発展させていくために何をやるのか。活動が内輪だけで終わっているのではないかと

A: 稲毛市の小中学校生に地図講座を開き、問題点を把握した。このようなことを続けたい。

3 食をテーマに活気ある街をつくる (食育。街行く研究会)



1, 2年目の活動は、教えたい人、店舗の育成、整備に重点を置いた。行政が行う法に基づいた食育とは別に、千代田

らしい、神田らしい食育への取り組みが必要と考えている。老舗と呼ばれる飲食店、名人と呼ばれるシェフのお店、昔ながらの職人さんの技がこのまちには残っている。「地域食」=「店舗」と町会、商店会、同業組合などの垣根を越えたネットワークを広げていきたい。今回は、料理を教えたい老舗に来てもらって、学んでもらうような食育を考えている。具

体的な活動としては、食育講師を募集、食の循環型体験教室を開講し、最終的には「食の教科書」を完成させたい。

Q: 昨年作成した老舗マップは食育では無く食のガイドマップではないかと疑問を持っていた。今回食育教室を開くと聞いて安心した。何回開催するのか、どのように募集するのか。

A: 助成額にもよるが、申請内容では10回を計画している。地元小学校や他の助成グループなど、これまでの

ネットワークを活かし神田地域で募集する。
Q: 行政がやらないこの活動を行って、出来上がってから行政に引き継いでも行政では出来ないのではないかと。その場合この会は解散するのか
A: 行政はこちらから突つかないとダメ、また実績を作らないと認めてもらえない。このための実績を作っている。この会は、私が千代田区食育検討会委員を続ける限り続ける。

4 多国籍居住時代・異文化理解によるこれからのまちづくり人材の育成 (NPO法人 ちぎゅう市民クラブ)



今回は4つの企画を考えている。①異文化交流ワークショップでは麹町幼稚園、小学校で

ラオス、スリランカ、トルコ、バングラディッシュなどの文化交流ワークショップを開催。②エジプト大使夫人の講演と懇親会。③移動式子ども基地の外国人児童向け出張では、コドモワカモノまちingと共同で、場所は大使館などを利用して行う予定である。④生活文化を知る交流プログラムでは、バングラディッシュおふくろの味料理などとおして異文化を知ってもらおう。

Q: 他グループとのネットワークを活用し、活動が広がっていると感じる。異文化を紹介するだけでは人材育成につながるのではと思うが、人材育成をどのよ

うに考えているのか。
A: 人材育成は長期的に考えている。この異文化紹介はあくまでもキッカケの一つと考えている。多様な価値観、異質なものを受け入れることができる能力を備えることが大事である。

Q: 継続した活動を行う上で、資金調達の目処はどのように考えているのか。

A: イベントでの会費徴収のほか、PTA会費や同窓会費などからの調達についても調査検討したいと考えている。

Q: 消耗品のなかで、料理材料代が入っているようだが、飲食に助成金を使うのは認められないと思うので、明確に区分して欲しい。

A: 受益者負担で検討したい。

Q: ③では、千代田のことを知ってもらうような工夫はするのか。

A: 千代田の歴史やランドマークなどについてクイズ形式の問題などを考えている。

5 地域連携による障害のある人の社会参加活動ときれいなまちづくり (NPO法人 WEL' S新木場)



昨年サポートを受けて活動した土台を活かし、今回は、「地域連携」と「情報発信」を積極的に行います。具体的には、区内福祉事業所(ジョブサポートプラザ)との連携による緑地管理作業や神保町応援隊との清掃活動などを行う。ブログの立ち上げや広報誌の作成により積極的に情報発信を行う。また、イベントでは昨年好評の「ハーブを使った石鹸作

り」のほか、「屋上栽培の小麦を使ったパン作り」を行う。千代田区は「働くお手本」となる方がたくさんいるので、就職を目指す障害のある人には、良い刺激となる心強い地域である。このようなお手本となる方を活用した体験の場も検討する。

Q: ジョブサポートプラザに登録している障害者もこの会に参加するのか。

A: 傷害の重い方もいるので実際どのようになるかわからないが、参加させたいと考えている。

Q: 一般の方が障害者と交流を持つのは難しいが、重要な

ことだと思う。一般の方が参加できるようにどのように工夫するのか。

A: 障害者の情報が不足しているため、交流に問題が生じて

いることも多い。きっかけがあればスムーズに交流できると思う。障害の程度によっては、明らかに合わない場所もあるので、適性を見極めて配置しなければいけない。

6 歩いて感じた「神田」の魅力を本にしよう (神田探偵団)



9年前の助成(一回目)では、自分が生まれ育った故郷「神田」を子供たちにわかりやすく理解してもらうため、パ

ネルを製作した。学校などへパネルを展示して、必要があれば講演も行った。これを機会にまち歩きガイドなどを頼まれるようになった。今回は、自らコースを設定し、まち歩きを企画する。まち歩きではテーマを決め、歴史、文化、建築やその土地にまつわるエピソードなどを織り込みながら行う。最終的には、これまでの観光「まち歩き本」にはない、生まれ・育ちが神田である神田っ子の目線で、手にとって楽しく神田を理解できる本を完成させる。

Q: 作成されたパネルは随分活躍していて、いろいろなところで拝見している。これから作成する冊子も期待できると思っているが、どの程度の内容を考えているのか。

A: 冊子はカラーA4版で全40頁程度の内容で、1千部の増刷を考えている。出来れば値段を付けたいし、広告も募りたい。

Q: 人件費に講師料が入っているがこれは何か。

A: 学芸員、館長、川などの専門分野の方々への講師料を考えている。

Q: 今回は9年ぶり2回目の助成である、今後10年後もエントリーするかもしれないとあったが、活動の継続性をどのように考えているのか。

A: 自分のふるさと神田を好きでいる限り継続したい。活動内容はその時代に応じて変化すると思うし、求められるものに応じられるように対応していきたい。

一般部門 助成1回目

7 千代田の人の輪を広げよう (神田人)



神田地域から仕事や遊行等の目的で神田を利用する人々も、新しい事を見つけて、また違う目的をもって神田に

来てもらえるようなまちにしたい。

現在「神田人」には、大好きスポーツクラブ、ライブ、カブトムシを育てる会、独居老人サポートの会など7つのサークルが所属しているが、これをさらに増やし、作成する小冊子、リーフレット、ホームページなどを活用して、個々に活動しているサークル同士が交流を持つ機会を提供したい。

子どもから高齢者まで、年齢や性別を意識せずに相互理解を育めるコミュニティ作りに励み、「神田の情報館」としての役割を担える活動をしていきたい。

Q: サークルなどのグループ同士を引き合わせるのが趣旨だと思うが、具体的にどのようにやるのか。

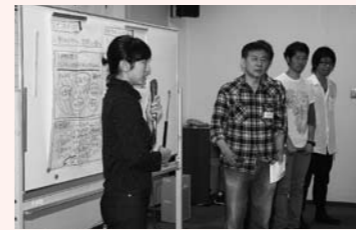
A: 既に活動している団体へ町会活動に参加しませんかと紹介したり、サークル間同士での交流を手伝う。

Q: 社会福祉協議会などはボランティアを紹介している。似たような役割をしている既存団体との違いは何か。

A: 既存団体が規模の大きいものを対象としているのに対し、我々は比較的小規模なグループを対象とし、一段下のところで活動したい。

Q: このメンバーでサポートできるのか心配だ。サポート機能がしっかりしないと、仲良しプラットフォームになかれない。面白い発想なので是非頑張って欲しい。

8 神田の魅力を「顧客目線」で世に広める! (かんだもん)



目標を、「伝わる」プロモーション!!、神田を「働きたい」「遊びたい」まちと思ってもらえ!!、として神田駅周辺を拠

点に活動する。オフィス街、観光地としても魅力あるまちなのに問題が山積。「パトロールで安全なまちになったので、今こそ神田に来てもらえるチャンス」、「こんなに良いところなのに、人が来ないのは情報が伝わっていないから」と思い、プロモーションが必要と考えた。商店会、町会にとられない「よそ者、神田大好きっこ」メンバーだからこそ分かる情報を発信したい。具体的には、グルメ・歴史マップや、WEBサイ

トの作成、ガイドツアー、ワークショップなどを行う。

Q: 神田にはポテンシャルを感じるのですが、とても必要なことと思う。プロモーションを行ううえでの工夫点はあるか。

A: 試験的に「乙女の神田マップ」を作った。これは女性モニターの目線で、気に入ったお店だけを掲載した。評判が良かった。このようにターゲットを絞って行いたい。

Q: 外国語版を作るとあるが、そのねらいは何か

A: 秋葉原には良く外国人客が来ているが、食事をするところがない。この方々を呼び込むことを考えている。

Q: 作成したリーフレットなどをどのように渡し、伝えるのか

A: いかに伝えるかが一番重要なことと考えている。手渡しや周辺企業の協力も得ながら、置いて頂ければ良いと考えている。

9 千代田区の山手線東側地区を広く知っていただき、活気溢れる街にする (EAST WIND千代田)



ヨドバシカメラができて昭和通り西側までは活気付いているが、東側は閑散としているのが現状である。そこで、この

東側地区にスポットを当て、①人の流れを呼び込む、②地区内での需要を喚起する、③新しい街のイメージを発信するを実現するため、タウン誌の発行やホームページを作成し、情報発信を行いたい。

Q: 何を発信するのか、西側に特化したコアなものは何か。

A: 新しくギャラリーが出来ている。こちらのオーナーから魅力を発信して欲しいという希望も聞いている。食事や買い物に関する情報が不足している。このような情報を発信したい。

Q: 会費収入の内訳を知りたい。

A: おもに8町会からの寄付である。

Q: 東神田の武蔵野美術大学アートギャラリーとの関わりはあるのか

A: ない。今後、交流したいと考えている。

Q: 東側の魅力をどう伝えたいのかが伝わってこない。他の地域とどのように差別化して情報発信を行うのか。特色を出すことが肝心である。

10 街と若者が共創するコミュニケーション型アート ~神保町コミュニティの再構築をめざして~ (神保町Art-Live-Rally実行委員会)



若者の神保町離れが深刻化している。これには、若者の本離れやコミュニケーションの希薄化が影響している。神保町の魅力は、直にまちの人と交流することで得られる心のふれ合いにこそあると感じている。この魅力を伝えるため、「アート」を架け橋にしたプロジェクトを企画(期間:12月3日~13日、場所:神保町周辺)する。具体的には、商店街力

フェを活用したアートの展示、古書店用ブックカバーのコンテスト、音楽・映像フェスティバルなどを行う。このような神保町と学生がつながるきっかけを作り、若者の神保町訪問回数を、現状0.5回/週から目標2.0回/週としたい。

Q: 学生主体のグループのようですが、目標2.0回/週を、単年で達成できない場合どうするのか。

A: ゼミ単位で活動している。後輩を含め、活動は継続して行い、目標を達成できるまで行う。

Q: 目標2.0回/週を達成すると、どのように魅力的なまちになるのか。

A: 若者が多く来ることにより、新しいムーブメントが生まれると思っている。これが魅力的なまちをつくるチャンスになる。
Q: アンケートはどのように行ったのか。
A: 今回は明大生65人に試験的に行った結果である。近々

大規模(200~300人程度)に行う予定である。
Q: 他大学との連携はあるのか。
A: デジタルハリウッド大学や共立大学などへ呼びかけたかと思っ

11 心も体も健康に千代田地域アクションプラン (アントレプルヌーラジャパン)



都市生活において、コミュニケーション不足、精神的ストレスや景気悪化による先行き不安から生活者の活力低下が問題となっている。このようななかで地域生活者の心・体の健康を支援し、地域に賑わいの創出、老若男女が地域の様々な方々と共に健康に、楽しく交流できる場を提供したい。具体的には、ドミニカ共和国大使関係者を招いてラテンダンスと一緒に踊ったり、イタリア公使夫人によるスローフード・ロハスで有名なイタリアの家庭料理講習会などを行う。ラテンアメリカでは精神的病気はあまり聞かないようで、ラテンダンスが元気の源にもなっているようだ。

Q: どのぐらいの人が参加すると想定しているのか。
A: 過去に行った、パナマ大使館との地域交流イベントでは70人、六本木で行ったときは150人の参加者であった。
Q: 参加費は有料なのか、無料なのか
A: 飲食を含め三千元程度の参加費を考えている。
Q: なぜ千代田なのか
A: 学生の頃から千代田と関係があり、千代田区へ貢献したい。
Q: この活動はいつからやっているのか。今回は千代田での地域アクションプログラムなのか
A: この活動は8年前からやっている。公益の活動に助成されることを知り、応募した。

12 江戸風土システム (日本の農業に一生を賭ける! 学生委員会(SOLA))



今、農業は多くの問題を抱えています。「農」と私たちとの関わりは希薄になりつつあります。都会で希薄になった農業をまちづくりの中に取り入れ、農業と接触する機会を提供します。

昨年トライアル部門からの助成で、旧今川中を利用した農業イベントを5回開催し、延べ200名の子どもたちに参加してもらった。親御さんからも「貴重な体験ができた」と大変喜ばれた。

今回は、「歴史と農業で人が繋がるまちづくり」として、神田の地名の由来のひとつも思っている「神田(かみた)」を現代に復活させる活動を地元の鍛冶町二丁目町会の方々と一緒にやりたい。

Q: 昨年のトライアルと違う活動内容は何か。オリジナルな部分はあるか。
A: 規模が大きくなった。企画から運営まで自分達で出来るようになった。
Q: 歴史について具体的な取り組みは何か
A: かつてあった青物市場の説明や紙芝居などをイベントの場で紹介したい。
Q: 支出内訳で食料費とあるが、自分達で作った物で調理するのではないのか
A: 自作栽培したものでは不足なため、他から調達する。調達食料は会費でまかなう。また都市農村交流の中で野菜の寄付なども募りたい。

13 心のまちづくり・昔と今の、人と街を結びあう (結びの会)



「今の人と人」及び「世代と世代」の心をつなぐことを目的とし、明治時代の麹町大通りに存在した「教育所」の現代版

を再興したい。今日、経済がリスクを増やすことや、高齢化社会が加速する中、心の渇きが問題とされ、どうしたら「心豊かな社会」をつくれるかが焦眉の課題であり、「こころの教育所」が必要とされている。具体的には、①仕事と日常生活の中で声をかけあう運動を行い、その成果と反省をする。②高齢者の記憶にある生活史を将来にわたる遺産として纏めたり、高齢者の抱える課題を発掘する。③まちの風景や生活史を収集整理して発行している「半蔵門通信」を拡大発行したい。
Q: 助成基準の一つに、「助成効果が高い」というのがある。この活動をとおしてどのように変わるのか
A: 精神的なものなので、数量的に示すのは難しいが、人間関係は良くなっていくと思う。
Q: 助成金が無くても活動をやるのか。

A: 活動は続けるつもりだが、助成金がない場合は発行部数、印刷の品質などを落とすことになる。
Q: 活動の体制および半蔵門通信の配布はどのように行うのか。
A: メンバーのうち6割が在勤者である。半蔵門通信を店に置くとしてすぐ無くなってしまふ、こうなると「モノ」で終わってしまう。配布時のコミュニケーションも大切と考えている、2千部に増刷した場合、必要な人に渡るように工夫したい。また、協力してくれる店舗、会社をつくらなければならない。
Q: 声かけ運動は、どのような人に、どういったタイミングで声をかけるのか。
A: 身近な人へ声をかけることから始めたい。
Q: 町会との関係はあるのか。
A: お寺のお坊さんや上智大学がある。
Q: この活動が本当にまちづくりに繋がるのか疑問である。
A: まちづくりはハードなものをつくるだけではない。楽しかったと思ってもらうことが、間接的にまちづくりに繋がると考えている。

14 子育てする家族が、暮らしやすい千代田へ～食育と自然育児 (自然育児を楽しむ会)



メンバーは、妊娠、出産、子育てを経験した区民17名で構成されている。子育てをするうえで「千代田区でこんなサービスがあればいいのに」と感じる時が多くあります。千代田区は他の自治体に比べ子育て支援が充実していますが、子育て夫婦目線でのサービスが少ない。そこで区内で実際に子育てをしている親の立場に立った子育て支援プログラムを提供していきたい。

具体的には、①食育: 区内の自然食品食材でつくる料理レシピ公開。②親子のコミュニケーション促進: ベビーマッサージやベビーサインの講習をとおし、心を癒し、お母さんたちの気持ちを楽しめる。③自然とのふれあい: 区内の緑豊かな公園を利用し、自然の中で子どもを遊ばせることで、本来子どもが持っている創造性を引き出したい。
Q: 他区より充実している子育て支援のなかで、これ以上何を望むのか
A: 社会福祉協議会などへ声を上げているが、未だ親の目線でのプログラムが不足している。現場目線で真に役

立つプログラムを提供したい。
Q: PTAでは子育ての基本は「あいさつ」からということをやっているが、未だにできていない。ベビーマッサージのような過保護なことをやるよりも基本をやってはどうか。
A: ベビーマッサージは過保護と考えていない。子どもと親とのコミュニケーションを育むきっかけになり、まさに挨拶につながると思っている。
Q: 活動参加者はメンバーなのか、広く公募するのか
A: 広く公募し、地域の方に貢献したい。社会福祉協議会からは、出生名簿への連絡などを協力してもらえることを約束している。このようなことを活用した周知を行う。
Q: まちづくりとの接点は何か
A: 地域商店の活性化に貢献できる。現在、自然食品を扱う3つの店との協力を約束している。料理レシピでは、この店のこの材料を使っているなどと紹介することでまちづくりに貢献している。
Q: 子育てサークルとの違いは何か
A: 他の子育てサークルは、集まって終わってしまうため、広がることは無かった。我々は、企業や商店と連携することで発展させることを考えており、ここのところが異なる。

15 半蔵門駅通りの美化活動
(半蔵門駅通り花の会)



タバコのポイ捨て、ゴミの投げ捨てが多いことに驚き、なかなかマナーが良くならないので、試しに街路樹の下に花を植えたところ、地域の方々との会話がはずみ、通りかかの方々との話し合いも始まった。こうした活動を続けたいと思い、応募した。半蔵門駅通りの美化、放置自転車対策に街路樹の下に四季の花々を植え、水やりや雑草取りなど手入れの活動を通して地域住民とのコミュニケーションを図り、健全なコミュニティの育成を目指したい。

Q：将来的にこの活動を発展させることを考えているのか

A：公共の美化活動に区が支援してくれる制度があるが、やがてはこのような支援を活用したい。この制度を受けるには、区と受け皿となる団体、例えば町会などと覚書を交わさなければならない。

Q：町内会とは調整されているのか

A：覚書を交わす受け皿としてなるために、町会と調整したが、花の手入れなどを責任持ってやれる手がないため、覚書を交わしていない。

Q：町内会ではない受け皿を作るのか

A：他の場所では、町内会ではないところとも覚書を交わしているようなので、参考にしたいと思っている。

Q：町会が覚書にYESと言わないようだが、地域の理解を得るためにも、町会との調整も大切にして欲しい。

審査会委員講評

鈴木会長



○アントレブルヌーラジャパン

今回が初めての応募であり、質疑応答においては、計画されている交流イベントが、どのようにまちづくりや地域の活性化に結びついていくのか、といった質問がなされた。サポートの目的に照らせば、活動内容が、まちづくりにどのように

結びつくのかという点が、審査の重要ポイントであり、その点を明確にできなかった点は残念であった。活動内容を見直せば、来年度以降、十分審査に合格する可能性はあると思われるので、ぜひ再度チャレンジされる事を期待している。審査会後も他の団体と積極的に意見交換されており、活動に対する熱心さが伝わってきた。サポートのネットワークを活かして、今後の活動を発展させていってほしい。

早田副会長



○NPO法人 地図文化研究会

本年度で3度目の助成決定です。「千代田のまちがこう変わってほしい」という願いを込めた市民参加・提案型の「未来地図」づくり。それを1年目から活動目標とされていました。過去2年間の成果は、「千代田自転車マップ」の作成で、中間的な成果という位置づけでした(大変見事な地図です)。今年はいよいよ地図を活用した区民の意見集約、「未来地図」の政策提言というゴールをめざし、どう実行していくのが審査員一同の関心事でした。計画書にある「モニタリング」、「意見交換会」という地域との密着なコミュニケーション活動がカギだろうと思います。千代田に拠点を置く地図の専門組織への期待が大きいです。その期待に応える成果を期待しています。

○神保町Art-Live-Rally

明治大学のアート・コミュニケーションを学ぶ学生グループ(波照間ゼミ)主体の実践企画です。12月上旬のライブ、CM放映、ブックカバーコンペなど一連のイベント、専門に勉強されている学生さんの取組ですで大変楽しみです。若干気になったのは、どこまでが学園祭で、どこからが千代田のまちづくりか?という点でした。学生がキャンパスから出て自己成長や社会貢献の機会を得るだけでなく、さらに一歩踏み込んで、地域を担う一員となり、地域のニーズに応え、期待される役割を果たして初めてまちづくりといえます。本年度で最初の応募ですが、今後、神保町まちづくりのパートナーとして継続して関わって活動していくための貴重なステップになることを期待しております。

田熊委員



○神田探偵団

1回目の助成獲得からなんと9年振り2回目のサポートチャレンジとなりました。代表の立山さんは既に神田のカリスマガイドと言って良い程、数々の実績を積んでおられます。これは1回目の助成で製作された神田パネルが切掛けとなり、パネルの展示解説はもちろんの事、町歩きガイド等の活動に広がったのだと解釈しております。今回の助成は、現在までの9年間の経験を元にした神田の本を制作されるという事。きっと他には類を見ない立山流の質の高い本が制作される事が予想出来ます。審査会での高評価はその実績からの期待度であります。また立山さんには神田の本制作にとどまらず、本をひとつの神田教材(パイプ)として、新しい視点での地域資源発信やまち歩きガイドの育成等にもご尽力頂きたいと存じます。

○かんだもん

グループ設立の発端となった、近隣の女性向けに試作された「乙女のかんだまっぷ」は誠に衝撃的でした。顧客目線で言うところの商店会も町会も関係なく、エリアを一つと考えプロモーションしていく手法は、当たり前のように思えるけど、この伝統的且つ保守的な神田エリアでは斬新でもあり挑戦でもあります。何よりもま

ちづくりには絶対欠かせない3要素…わかもん(学生)・よそもん(OL)・ばかもん(地元)が、一緒に活動している事も高く評価できます。今後の留意点は神田エリア全体における膨大な雑多情報を、どの様に仕分けし、何の情報を、誰に対して、より効果的に発信できるかと言う事であり、マップや情報発信の良し悪しは、現状課題の分析力と企画力で決まります。自らが神田ファンでもある「かんだもん」が神田のファンを増やすべく立ち上がった事、これからの活動に期待しております!

○日本の農業に一生を賭ける! 学生委員会(SOLA)

トライアル卒業から1回目の助成獲得となりました。昨年度旧今中での様々な活動は地元や行政にも認知され、一定の成果を上げた事は評価しております。神田の文化継承に貢献したいと言う気持ちも賛同できます。しかしそれが神田(かみた)復活プロジェクトと言うだけでは、SOLAの基本理念が伝わって来ません。千代田の廃校を活用して情報発信をする場が与えられたのはチャンスでもあり、この場が都会の中心である事、江戸の古町である事、計画が決定してない廃校である事を熟慮して、もっと大胆で壮大なSOLAストーリーを展開してもらいたい。目標に向かってジャンプのための力強い助走(助成効果)を期待しております。活動が企画倒れの絵SOLA事にならない様に!

谷委員



○半蔵門駅通り花の会

花いっぱい運動は、まちづくりの基本ではないかと私は思います。しかし、いざやろうとすると、そのケアの大変さに皆さん躊躇し、挫折してしまうのです。グループの皆様は、地域に長く住んでいらっしゃる方たちの集団。ご自分の庭のような場所、それをフルに生かして活動できるのではないのでしょうか?今集まっていらっしゃる方たちがコツコツ曜日・時間にかかわらず花の手入れをしていけば、結構人通りの多いところなので目に付かずです。一案としては、花の手入れをしているときなどに、呼びかけ、パンフレット配布などの、アピールが必要だとも思います。会社ぐるみで参加してくださる方などが出てくるのではないのでしょうか?地域に参加貢献したい企業は今、たくさんあります。いっしょにやったださる仲間をたくさん作る事からはじめてみてはいかがでしょうか?

○結びの会

半蔵門通信を拝見して、この土地に長く住んでいるものとしては、興味深いものでした。そして、この半蔵門通信を媒体にして、まちづくりをしていこうというお考えも理解しました。が、発表をお聞きしても伝わってきませんでした。まちづくりは、いかにみなさんが賛同参加しつつ、輪が出来て心が通うまちになっていくものだと思います。半蔵門通信を読んで、老若男女が興味をもってくださることも大事だとも思います。一つのアイデアですが、半蔵門通信に、これを出している意味、趣旨、などを入れられるのも良いのではないのでしょうか?またPC時代です。印刷費用を考え、メールマガジンのようななさたら、若い層に読まれ、違った角度からも反応も出てくるのではないのでしょうか?それには、もっと実労働をしてくださる若者を見つけられることが、方向的に早いとも思いました。

中嶋委員



○神田人

どのように活動が展開していくのか、想像しづらいところがあり、正直やってみないと分からないと思いました。魅力ある街「神田」として、情報宣伝活動を積極的に行っていくようですが、みなさんならでは「切り口」があるのではない

かと思っていますので、これを武器に宣伝して欲しい。また【街サポート】では、既存の活動を発展させるものや新規に開拓していくものがありますが、新しく加えるものをたくさん増やし、提案のとおり、会社や町会など所属する枠組みにとらわれることなく、人々の輪が広がっていく活動を展開して下さい。次の中間発表会までは、活動も具体化され、方向性も見えてくると思いますので、期待しています。

中嶋委員

○EASTWIND千代田

秋葉原東部としての現状分析はしっかりしているようですが、大切なのは、このまちの魅力のポイントと、この魅力をどのように伝えるのか、ということだと思います。このコアとなる部分を捉え、今後の活動を発展させて下さい。提案内容の、①人の流れを呼び込む、②地区内での需要を喚起する、③新しいまちのイメー

ジを発信する、の実現には随分と時間がかかるのではないかと思われます。目標の達成には計画的な行動が求められると思います。今年度は何をやるのかを明確にし、ステップを踏みながら進めてください。有識者の意見も聞かれるようですが、この場に集まった他のグループとの意見交換などをすると新しいものが生まれるかもしれません。

新田委員



○NPO法人 ちきゅう市民クラブ

2回目の申請ということでしたが、1年目の気づきと経験を踏まえ、さらに進めたい人材育成の焦点が明確になっていたことが、勝因だったのではないかと思います。これからのまちづくりにおいて、異文化理解は欠かすことのできない大きな視点です。具体的に、主に子どもたちを対象とした料理教室や異文化理解ワークショップの開催ではあるが、学校の先生、父兄、PTAとの連携を大切に、千代田地域と千代田区に暮らす人々と多層的に織り成すプログラムであることが評価できました。エジプト、モンゴル、サウジアラビア、イラン、インドネシアと多彩な国のことを学べるのも魅力的だと思いました。

○NPO法人 WEL'S新木場

団体名に新木場という地名があり、千代田区に事務所はあるものなぜ千代田なのか?という疑問を当初もっておりましたが、プレゼンテーションをお伺いすると、障害者の仕事作りを地域密着ですすめるという大変明確なビジョンを持って、進めておられることが理解できました。NPO法人として活動を行う部分と、企業と連携し、障害を持っている方の仕事として委託業務を行う部分は、今後法人格を分けて行うことも検討されています。ますます組織の基盤強化に取り組むことが重要だと指摘させていただきました。廃校を利用した地域の方もともに活動できるプログラムは、もっと推し進めていただきたいと思えます。

山崎委員



○C-bridge

1年目は神田川や日本橋川を対象に、また2年目は皇居内濠を対象に、橋めぐりや周辺のまちめぐりを実施されてきました。最終的にはこれらの活動を通して、新たな観光ルートの提案を目指そうとされていますが、しっかりとした計画に基づいて取り組みが行われています。今回は3年目で、橋だけでなく周辺建物を含めた具体的な観光ルートの提案がされることですが、大いに期待しています。また、それを実行していくための採算性の検討や、活動の継続性を考慮して学生が中心であったグループに社会人が参画されるなどの取り組みは、高く評価できるものと思えます。

○自然育児を楽しむ会

一次審査で青紙を貼ったのは、私一人でした。実は私も申請書を見た段階では、他の委員と同様に、一般的な育児サークルとあまり変わらない活動ではないかと思いました。発表の中で、活動はグループのメンバーだけでなく、広く区民を対象に行っていきたいという説明があり、それならば千代田区の暮らしやすいまちづくりに繋がるのではないかと考え直しました。その後、世代を超えた情報交換を行ってほしい旨の補足説明もされ、他の委員もサポートの必要性を認識されたものと思えます。広く情報を発信し、より多くの区民の皆さんと共に活動されることを期待しています。

○食育。街行く研究会

はっきり言って、1年目2年目の活動は、どうして食育に関係しているのか理解できませんでした。成果品は、地域の飲食店や老舗を紹介するガイドブック的なもので、これはこれで利用価値はあるものの、食育とは今ひとつ結び付きにくいものでした。今回3年目の取り組みとなり、ようやく堀井さんの意図が理解できました。ようするに、「誰が誰のために食育をするのか」が問題であり、その教える側の体制整備を図るために、これまで地域の飲食店等のネットワークづくりをされてきたとのこと。3年目に入り、これからが食育の本番と思えますが、どのような成果が出されるか楽しみにしています。

総評 (鈴木会長)



今年度のサポート審査会では、初年度応募の団体が8団体あり、これまで応募の無かった地域からの団体あり、数年ぶりに応募した団体ありと、多彩な団体の応募がありました。11年目を迎えたまちづくりサポートのさらなる広がりの可能性が感じられる審査会であったように思います。毎年の審査会や審査員のやり取りのなかで話題になるのは、「まちづくり」とは何であるのかという、「まちづくり」の定義の問題です。これまでの審査会でも、「これは個人的な趣味のグループではないだろうか」、「まちづくりに発展する明確な意義が見えない」などの率直なやりとりがなされてきた

ように思います。しかし、特定の人達の活動であっても、その活動成果が情報発信され、多くの市民と共有される事で、まちづくりへとつながっていく可能性もあります。その点は審査員にとっても大きな悩みでもあるのですが、審査の段階で、厳密に「まちづくり」の定義を考えるより、その都度判断し、応募者と一緒に「まちづくり」とは何だろうか、「まちづくり」へとつながるためにはどうすれば良いか、ということ、審査会や中間報告会のやりとりを通して考えていくことが必要なのではないかと思っています。むしろ、まちづくりサポートでは、そんな境界線上の活動についても支援し、それを千代田における「まちづくり」の新たな展開へとつなげていく役割があるのではないかと考えています。一年間の助成団体の活動が千代田のまちづくりの新たな魅力となっていくことを期待しています。

第11回千代田まちづくりサポート公開審査会審査結果

部門	申請回数	団体名	代表者	申請額(万円)	一次評価	二次評価	助成対象	助成額(万円)
一般	3	C-bridge	伊東 孝	40	★★★★★◆	●●●●●●●	◎	34.9
一般	3	NPO法人 地図文化研究会	橋本 進	50	★◆◆◆◆◆◆	●●●●	◎	22.7
一般	3	食育。街行く研究会	堀井 市朗	50	★★★★★◆◆	●●●●●●●	◎	36.9
一般	2	NPO法人 ちきゅう市民クラブ	千代鳥 モーミンウティン	49	★★★★★★★	●●●●●●●●	◎	44.4
一般	2	NPO法人 WEL'S新木場	春田 文夫	46	★★★★★★◆	●●●●●●	◎	34
一般	2	神田探偵団	立山 光昭	50	★★★★★★◆	●●●●●●●●	◎	43.6
一般	1	神田人	半田 利幸	50	★★◆◆◆◆▲	●●●●●●	◎	30
一般	1	かんだもん	小林 絵美	49.5	★★★★★★◆	●●●●●●●●	◎	42.4
一般	1	EAST WIND 千代田	佐々木 義治	48	★◆◆◆◆◆◆	●●●●●	◎	29.3
一般	1	神保町Art-Live-Rally 実行委員会	能代谷 亮	43	★◆◆◆◆◆▲	●●●●●●	◎	12.9
一般	1	アントレプルヌーラジャパン	佃 誉史	48	◆▲▲▲▲▲▲		×	-
一般	1	日本の農業に一生を賭ける! 学生委員会(SOLA)	鶴澤 佳史	50	★★◆◆◆◆▲	●●●●●●	◎	27.9
一般	1	結びの会	徳光 祝治	32	◆◆◆◆▲▲▲	●●●●	◎	17.9
一般	1	自然育児を楽しむ会	関 智征	50	★◆◆▲▲▲▲	●●●●	◎	18.3
トライアル	-	半蔵門駅通り花の会	岩城 悦子	5	-	-	◎	5

【審査結果】 一次評価: ★ 活動企画内容を指示し、今回のサポート助成が必要と考えられる
 ◆ 活動企画内容はもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい
 ▲ 社会的に意義ある活動だが、サポート助成の趣旨になじみにくいと考えられる
 二次評価: ● 今回の助成対象として推薦する

事務局より連絡

今年度より助成方法を変更しました。変更点は、助成額を活動費の4/5までを上限としたことです(トライアル部門を除く)。これは、持続的、継続的な活動をしていただくために設けました。

服部委員の後任として新田恵理子氏が新しく審査会委員に加わりました。新田委員は特定非営利活動法人日本NPOセンターの職員として、NPO向けの講座、研修、全国大会などの企画・運営や、企業の社会貢献プログラムの相談やNPOの運営相談などの対応をされている方です。

編集後記

3分間の短い時間の中で、活動内容を発表することはとても大変なことです。発表者、特に初めてのグループは、緊張した面持ちで、発表の控えの時間に何度も練習をされていたのが印象的でした。残念ながら助成対象とならなかったグループはあと少しではなかったのでしょうか、次回の応募をお待ちしています。また、新しくまちづくり活動を始めようと思っている方、お気軽にご相談にいらしてください。

審査会委員 (敬称略)

会 長	鈴木 伸治 (横浜市立大学国際総合科学部准教授)
副会長	早田 宰 (早稲田大学社会科学総合学術院教授)
委 員	田熊 清徳 (神田芸芸祭実行委員長)
	谷 真理子 (千代田区青少年委員)
	中嶋 利隆 (大手町丸の内有楽町地区再開発計画推進協議会 事務局長)
	新田 英理子 (特定非営利活動法人 日本NPOセンター)
	山崎 芳明 (千代田区政策経営部長)

(財)まちみらい千代田 賛助会員一覧

2009年4月 現在

※本事業は下記の法人会員と個人会員の支援で運営されています。<賛助会員募集中>

【法人会員】		【個人会員】	
業 種	会 員 名	業 種	会 員 名
金 融	興産信用金庫	建築設計	(株)アール・アイ・エー
	大和証券(株) 本店営業部		(株)ADプロジェクト
	(株)東京都民銀行 神田支店		(株)関東設計
	(株)東日本銀行 飯田橋支店		(株)共立エステート
	みずほ信託銀行(株)		(株)楠山設計
建築土木	(株)大林組 東京本社	(社)東京都建築士事務所協会 千代田支部	犬 伏 真 渡 邊 和
	大林道路(株) 関東支店	(株)都市環境計画研究所	今 川 守 清 水 玲 子
	五洋建設(株)	パシフィックコンサルタンツ(株)	浦 田 泉 塚 越 茂
	清水建設(株)	(株)ポリテック・エイディディ	岡 田 貫 伍 野 間 善 治
	大成建設(株)	(株)ラウム計画設計研究所	角 地 登 志 子 田 村 崇 彰
	(株)竹中工務店	コンサルタント	加 藤 武 夫 阿 部 武 志
	中央建設(株)	NPO法人都市住宅とまちづくり研究会	木 村 進 一 北 澤 悦 子
	(株)ナカノフドー建設	NPO法人マンション管理支援協議会	小 林 勝 彦 中 川 典 子
前田建設工業(株)	その 他	佐 藤 正 幸 小 山 政 士	
不 動 産	エヌティティ都市開発(株)	秋葉原商店街振興組合	須 藤 昭 雄 他9名
	協永(株)	秋葉原中央通商店街振興組合	
	(株)久保工	(株)イサミヤ	
	住友不動産(株)	神田古書店連盟	
	三井不動産(株)	(株)デザインファクトリー	
	三菱地所(株)	東洋美術印刷(株)	
	安田不動産(株)	フィールファイン(株)	
緑花・環境	日産緑化(株)	富士ゼロックス(株)	
広告代理	(株)フィレール	プラットフォームサービス(株)	
	ウェブリオ(株)	(株)メディアリンク	藤 本 琢 巳
電気・通信		ヨシモトポール(株)	堀 部 剛 正
			松 島 弓 子
			松 波 道 廣

(法人:48 個人:49 計97)